

農政問答をつくばらん

聞き手・朝日新聞政治部

政調会長時代、総合農政調査会長も兼務した直後のもの。日本農業の問題点を直視し、総合的な対策を推進しなければならないと語っている。

いまの農政は生産者米価を上げる以外に能がないという声もあります。構造改善とか、選択的拡大とか随分いわれてきたが、大して改善のあともないようですね。(いささかぶしつけどが、政調会長もつとめる「大物」総合農政調査会長に単刀直入に聞いてみる。腕組みをしてウーンと考え込んでから)

「そういう非難はあるが、さる三十七年から四十年にかけて米の総収量はずっと減ってきた。米の消費量も減ってきているが、それでも米の生産が消費に追いつかなかつた。ところが去年の豊作で需給事情が逆転してしまった。こつしたわけだから、政府がこれまで米の生産を重視したのも無理はないじゃないか」(いちがいに責めてくれるなという表情)

「これまでの農政は、農家の所得と都市の勤労者の所得とを実質的に均衡させるといふ政策にそつて進められてきた。総体としていまの農家の所得水準、消費水準は、都市の勤労者のそれとバランス

がとれてきた。こうした全体の姿を見て評価していただかないと困る。これまでの政策に高い点数をつけてもパチは当たらないよ」

生産量がふえ過ぎた

「コメの問題は、大平さんのいうような最近数年間の需給の問題ではなく、これまでずっと続てきた米作中心主義の破たんという見方もあります。」

「あんまり急に生産量がふえたことに原因がある。平年作は千三百万トンの水準なのに、去年は千四百万トンもできた。天候のせいもあるが、稲作技術が発達、普及し、新しく水田を開く技術も進んで、簡単に水田をふやせるようになった。米の品種も、いまの制度のもとでは、収量中心で病気に強い品種がどつと普及した。一方、米の消費量が今後漸減の傾向をとっていくことはほぼ確実だ。米というものは特殊なものでね。それぞれの国のユニークな土壌、天候や伝統に合った味を持っている。科学的に解明して割切るには、扱にくいものなんだな。そういうわけだから、だれが農政の責任者になっても簡単にはいかないよ」(独特の細い柔らかな目をいっそう細めながらボソリ、ボソリ話す)

大平さんは香川県の農村出身。大蔵省でも農業問題を扱われたエキスパートですが、結局は農政をどの方向に持ってゆく必要があるのですか。

「米作に向いたところ、向かないところといった地域的特徴に応じ、園芸地域にするとか、酪農地域にするとかいろいろ検討したうえ、政府が助成策を講じ、大量の財政投資をしなければならぬ。農業だけでは資本もなく、とても無理だ。この点にわれわれが着目して、総合農政を精力的に推進し

てゆかなければならない問題がある」

「といつても多くの農家は、食糧制の堅持を主張しており、そうした政府の指導に簡単についていけないのではないだろうか。」

「問題は、米を作るのが一番所得が安定するという点にあり、農家は所得の安定に魅力を感じているわけだ。したがってどんな対策をとる場合でも、農家の所得をふやすもので、農家から信頼を得るものでなければならぬ。だから対策はすべて長期的なものになり、たとえば来年度からすぐ、はなばなしい効果をあげるといったものを期待されても困る」

ズバリ、米の直接統制をやめ、間接統制に切替えるという考えはどうですか。

「米の生産がふえ、消費が減ってゆくことはほぼ確実だ。この需給パイプをどうつないでゆくかで、直接統制か間接統制かの方法論が出ているわけだ。わたしとしては方法論は第二義的な問題と思つてゐる。方法論より先に、生産政策の面で、農家から信頼を得るような状態をつくることに、まず重点を置くべきではないか」(いまつつかり間接統制論でもぶとうものなら、農民や農林議員連から袋タタキに合うのは必定。大平さんもその辺は心得たもので、農家の信頼獲得を強調しながら、たくみに受流す)

「即効薬」を期待しちや困る

ところで都市の消費者のなかには、政府は農村の面倒ばかりみて、ダブついている米を高く買わされているという不満があります……。

「いまの時点で判断すれば、そういう不満が出てくるのも無理はないだろう。しかし終戦直後、米が嚴重な統制のもとで安い値段で供出され、都会の人たちの生活をささえた時もあるんだ。最近の事情の変化だけをとらえて批判するのは酷ともいえるのではないか。しかし、今のままでいいというものではなく、都市の人たちのことももちろん考えている。だから総合農政といっているわけだ。色メガネで見ずに、率直に見詰めてほしい」

いま衆参両院とも、都市と農村とで、議員の定数が非常に不均衡になっているが、定数を実情に合わせて直し、都市議員の数がふえたら自民党はピンチになるのでは　という声もありますね。

「では野党は、米価問題で一体どういう態度をとっているのか。自民党に輪をかけたような米価をいっているじゃないか。なんとというか、農村に選挙地盤を持っている自民党だけでなく、各党の政治家と名のつく人たちが、米価に関心を持つのは当然といえるわけで、理解してほしい」(今年の生産者米価の要求を見ても、自民党よりも野党の出した額のほうがよほど高い。自民党が農村に甘いというのなら、野党のほうがもっとひどいじゃないかといいたいらしい)

「政府は政権を握っているだけに、無責任なことはいえない。とにかく問題を解決する責任がある。農家、都市の人、物価、家計と色々なことを考えて、ギリギリ汗をかいてやっているわけで、この苦心をくんでもらわないと……。野党の人たちのように割切った作文を書けばすむというわけにはいかないんだ。頭が痛いよ」